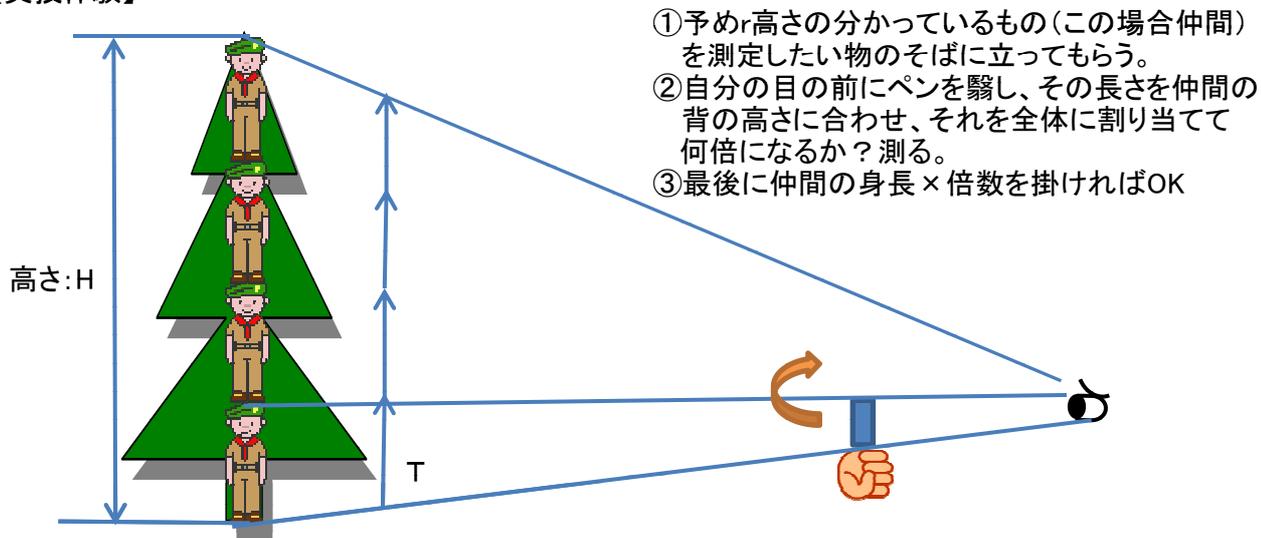


高さ測定: その2・割り当て法を用いて測る

【導入】 予め高さが分かっている人や物がある場合に、それを利用する測定法である。
障害物が有って、根本までの長さが測りにくい場合にも使える測定法である。

【実技体験】



つまりこの場合、高さ(H)は $H=T \times 4$ となる

<注意するポイント>

1. ペンなどの長さで仲間の身長を上手く合わせる事
2. 自分は絶対に動かない事
3. 手はなるべく伸ばした状態に近い方が誤差が出にくい。
4. 整数倍でないと詳しくは分かりにくい面がある。
5. 非常に高い物(高層ビルなど)には不向きなことがある。
※近隣に高さの分かっているビルなどがあれば可能となる。

カブ年代でも
出来ますね。

この測定方法は、測定物との間に池や障害物があっても、予め高さの分かっている人などが居ればいつでも出来る測定方法です。
三角関数の知識がなくても、チャレンジ出来るので、小学生でも可能です。

